

「血液培養」って？

今回は風邪について取り上げました。風邪の原因はウイルスであり抗菌薬（抗生剤）が効かないこと、抗菌薬をむやみに使用していると抗菌薬の効かない細菌が出やすくなること、抗菌薬にも様々な副作用があることをお話ししました。

それでは、どのような時に抗菌薬を使うのでしょうか。今回取り上げる「血液培養」検査で細菌が見つかった時は積極的に抗菌薬を使って治療します。

■「血液培養」とは？

私たちの体は表面から菌が入り込まないようにいくつものバリアを備えているので、血液の中には菌（細菌や真菌など）はいません。しかし、これらのバリアを破り菌が血液の中に留まってしまうことがあります。血液を採取して菌がないか調べる検査が「血液培養」検査です。

■どんな時に「血液培養」検査をしますか？

「血液培養」検査を行うのは血液の中に菌が入り込んでしまっていると予想される場合です。

- ・長い間原因不明の熱が続く時
- ・すでに尿や肺などに菌が入り込んでいる時

などに行います。

菌が血液の中に入り込んでいても抗菌薬を使っていると検査が陰性となってしまうことがあるため、一度抗菌薬の使用を中止してから検査を行うこともあります。

■どのような検査ですか？

検査は通常別々の2箇所から針を刺して行います。検査の際には周囲に存在する無害な菌が誤って培養されてしまうことがあります。別々の2カ所から血液を取ることで本当に血液の中にいる菌なのか、偶然培養されてしまった菌なのか推定できるのです。

■すぐに結果が出ますか？

「血液培養」検査では菌にとって居心地のよい環境を与えて菌が増えてくるのを待ちます。菌が増えるまで数日かかるため、検査を行った当日には結果は出ません。

■「血液培養」検査をせずに抗菌薬を出してもらえませんか？

抗菌薬には菌との相性があり、どの抗菌薬にも効きにくい菌があります。

血液の中にどのような菌がいるのか知ることができれば、その菌に対して効果の高い抗菌薬を選ぶことができます。「どの抗菌薬を使えばよいのか」のヒントを与えてくれる検査が「血液培養」検査なのです。

（文責：玉井 博也）